

赤十字奉仕団 西播磨地区赤十字奉仕団が救急法講習会を企画!

西播磨地区赤十字奉仕団では、赤十字の「人道」の精神に基づき、不慮の事故や急病に対する救命・応急手当等の講習の普及を行っている日本赤十字社の活動を推進するため、毎年、赤十字救急法講習会を企画しており、7月27日(土)・28日(日)・8月3日(土)の3日間、上郡町役場で「赤十字救急法基礎・救急員養成講習」を開催しました。

今回は、相生市・太子町・上郡町に在住の15歳から73歳までの男女13名が受講し、1日目は基礎講習(手当の基本・AEDを使った心肺蘇生や気道異物除去)、2・3日目には応急手当(止血・三角巾を使ったきずの手当・骨折の手当・搬送等)について、参加者全員が取り組みました。

参加者からは、「学科・実技検定に合格できるかしら」「覚えられるかしら」といった不安の声もありましたが、3日間を通じて、「また講習を受けたい」「楽しかった」「近くで受講できて良かった」「覚えたことを活かしたい」などの声も聞かれました。

参加者が力を合わせ、教え合い、大変面白い雰囲気の中で開催することができ、有意義な講習となりました。



熱心に取り組む受講者の皆さん

救急法等の講習 赤十字救急法ミニ講習会を開催

～あなたにも救えるいのちがある～

7月28日(日)、イオンモール伊丹昆陽で、赤十字救急法ミニ講習会を開催。

「知っていれば安心!～心肺蘇生とAEDの使い方～」と題されたこのイベントは、一般市民の方々への一次救命処置の普及啓発を目的に、人工呼吸、胸骨圧迫、AEDの使い方を体験していただくためのものです。

夏休みということもあり親子での参加が多く、子どもたちも一生懸命指導員の説明を聞き、自ら積極的に胸骨圧迫などに挑戦していました。順番待ちするほどの賑わいで、子どもたちから大人まで115名にご参加いただきました。



たくさんの方が参加

～World First Aid Day キャンペーンイベント～

赤十字救急法ミニ講習会を開催します!

開催日時: 9月15日(日) 11:00～16:00

開催場所: イオン明石ショッピングセンター 2番街 1階 海の広場

◎赤十字では、世界中の人に「ファースト・エイド」(救急法)を知ってもらうため、9月の第2土曜日を「ワールド・ファーストエイド・デー」と定め、日本国内をはじめ、世界各地で救急法の普及活動を行っています。

開催
予告

医療事業 姫路赤十字病院「ふれあい看護体験」と「夏祭り」

～「将来は、絶対看護師になる!」ふれあい看護体験から～

7月25日(木)・26日(金)に、「ふれあい看護体験」を開催。近隣市町の高校生56名が参加されました。

当日は、ナース姿に照れながらも、病棟に着くと緊張を隠しきれませんでした。しかし、患者さんの励ましや温かい言葉がけ、スタッフと一緒にケアを行ううちに緊張もほぐれ、終了時間になっても「帰りたくない」と悲しむ生徒や、実際の看護師の姿から「体力はあるが、やりがいのある一生の宝物になる職業であり、漠然と看護師になりたいというイメージが確信に変わった」と生徒の皆さんが話していました。

また、7月22日(月)・23日(火)に、姫路赤十字看護専門学校学生奉仕団の小児病棟訪問班が、同病院の小児病棟や院内保育所を訪問。保育園児や、突然の病気で入院生活を強いられた子どもたちに、「夏祭り」というちょっとしたお楽しみを届けました。

縁日のように、折り紙で作った金魚すくいやボール投げ、お面作りなどの催しを行い、子どもたちの楽しそうな笑顔に、学生たちもたくさんの方の元気をもらったようでした。



すくえた金魚はプレゼント



緊張しながら赤ちゃんを抱っこ

ひょうごの赤十字

2013 9月
SEPTEMBER

- JOIN! 赤十字は、あなたの力を待っている。
- フィリピンでの保健ボランティアへの衛生教育のために
- 淡路島災害救護拠点、血液搬送拠点が始動
- 夏季リーダーシップ・トレーニング・センターを開催
- 猪名川町立楊津小学校、大阪府青少年赤十字トレセンに初参加
- 平成25年度第1回地区赤十字奉仕団委員長会
- 近畿ブロック血液センターを見学して
- 西播磨地区赤十字奉仕団が救急法講習会を企画!
- 赤十字救急法ミニ講習会を開催
- 姫路赤十字病院「ふれあい看護体験」と「夏祭り」



赤十字ボランティア

JOIN! 赤十字は、あなたの力を待っている。

～若い世代の皆さんに赤十字活動への参加を呼びかけるキャンペーンがスタート～

赤十字の活動は、多くのボランティアの方々によって支えられています。その中には、気軽に参加できるものがたくさんあります。「ボランティアの経験はなくて…」という人でもきっと大丈夫! みんなと一緒に赤十字ボランティアに参加してみませんか?

お問い合わせは、日本赤十字社兵庫県支部奉仕課まで。



TEL.078-241-8922
(兵庫県支部 奉仕課)

お電話で



パソコンから

<http://www.jrc-akb48.jp/>

日本赤十字社 AKB

検索

日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区臨海海岸通1丁目4番5号
TEL.(078)241-9889 FAX.(078)241-6990
<http://www.hyogo.jrc.or.jp/>



赤十字は、あなたの力を待っている。

JOIN!

www.jrc-akb48.jp

日本赤十字社

国際活動

フィリピンでの保健ボランティアへの衛生教育のために

～津田看護師(姫路赤十字病院)からの保健医療支援事業の中間報告～

日本赤十字社は、平成23年4月から平成26年3月まで、フィリピンオロラ州ディラサグ郡において保健医療支援事業を展開しています。オロラ州の州都であるバレーまでは首都マニラから車で約6時間、ディラサグ郡まではさらに4時間程かかります。ディラサグ郡には入院設備などがなく、医療設備も整っていません。また近くの病院に行くためには車が必要ですが、車自体が少なく、更に雨が降ると舗装されていない道路は川と化し、車での往来すらも難しくなることがあります。

雨季(7～12月)になると水が原因となる下痢、皮膚疾患、寄生虫病などの病気が増加します。その最も大きな原因として、トイレ設備不足など衛生環境が整っていないことや、住民の知識不足などが挙げられます。

日本赤十字社はフィリピン赤十字社を通じ、地域住民で組織されている赤十字保健ボランティアを育て、健康教育や水設備を整えることによって、ディラサグ住民の健康増進に関わっています。

今回、私はその健康教育の一環である保健ボランティアの衛生教育活動に関わりました。この衛生教育は4日間の集中トレーニングで、約40人の保健ボランティア達と私たち赤十字スタッフが集まり寝食を共にして行いました。その中で彼達は衛生環境を整えるためにはどうすればいいのか、また地域資源をどのように活用すればいいのかという知識を得て、その後は自分たちで地域に存在する問題を考え、答えを導き出し、実践へとつなげます。

トレーニング後はそれぞれの地元に帰り、各々が赤十字ボランティアとして地域住民に衛生教育を行い、そのフォローを赤十字が常に行っています。ボランティアの1人が「このトレーニングはとても素晴らしい。さらに、もっともっと勉強がしたい、トレーニングを積み地域の役に立ちたい」と語ってくれました。私たち赤十字は地域の力を何よりも大切に、彼らと共に活動を行っています。



村人に衛生教育についてのインタビュー



保健ボランティアに講義

血液事業 災害救護

淡路島災害救護拠点、血液搬送拠点が始動

～災害への備え、そして血液製剤を迅速にお届けするために～

南海トラフにおける巨大地震の発生が懸念される中、明石海峡大橋が通行できない場合を想定し、救護員のみが渡島することで被災地で直ちに医療救護活動が行えるよう、兵庫県赤十字血液センター淡路供給出張所敷地内に、新たに「緊急対応ユニット(診療所ユニット)」を配備しました。診療所となるエアートtentをはじめ、医療セット、トリアージセットなど災害救護活動に必要な資器材一式と運搬車両を配備しています。

一方、献血により作られる赤血球製剤や血漿製剤などの血液製剤は、輸血を必要とする患者さんへ365日24時間体制でお届けしています。

島内の医療機関へは、これまで兵庫県赤十字血液センター(神戸市)から届けていましたが台風などの悪天候時には明石海峡大橋が通行止めになることもあります。そのような事態に備えるために医療機関にご負担をおかけし、血液運搬車両を島内に待機させるなどの対応をしてまいりました。この状況を解消するため、兵庫県赤十字血液センターでは、4月8日(月)に淡路供給出張所(洲本市)を開設し、迅速な血液供給に努めています。



災害救護拠点に配備した災害救護車両

青少年赤十字

夏季リーダーシップ・トレーニング・センターを開催

8月6日(火)から8日(木)まで、明石市立少年自然の家で、中学生と高校生を対象とした夏季リーダーシップ・トレーニング・センターを開催。今回は、県内9校の中学生35名の生徒と、青少年赤十字指導者(先生)、神戸青年赤十字奉仕団、姫路赤十字看護専門学校学生奉仕団、支部職員のスタッフ等32名が参加しました。

初日は「赤十字の誕生から現在まで」をテーマに、赤十字についての知識を深めました。2日目は、フィリピンでボランティア活動をしていた松井綾香さん(親和女子高等学校OG)を講師に、「私がフィリピンで考えたこと」と題したフィリピンの風土や現地での体験談等を話していただきました。興味深い話に海外留学や国際ボランティアに興味を抱いた生徒が多く見られました。猛暑の中、最終日のフィールドワークでは、今回の研修を通じて得た知識や救急法等の技術を試すゲームやクイズなどが用意され、生徒たちはグループで互いに協力し合い、見事難関を通過していました。

生徒間の交流をはじめ、態度目標である「気づき」「考え」「実行する」を生徒自らが自主的に実践するなど、たいへん有意義なトレセンとなりました。



学んだ救急法の技術を発揮!

青少年赤十字

猪名川町立楊津小学校、大阪府青少年赤十字トレセンに初参加



みんなで目隠し歩行体験

8月1日(木)から3日(土)まで、大阪府立少年自然の家で開催された大阪府青少年赤十字メンバー・リーダーシップ総合型トレーニング・センター(トレセン)に猪名川町立楊津小学校の6年生8人と先生2人が初参加しました。

はじめは少し緊張した面持ちでしたがすぐに友達ができ、ボランティアや青少年赤十字についての学習、ボランティアサービス、フィールドワークなどに熱心に取り組んでいました。また、夜のつどいでは、キャンプファイヤーやレクリエーションが行われ、小学生から高校生、指導者の先生方と一緒に楽しいひと時を過ごしていました。

兵庫県内では中・高等学校生を対象としたトレセンは実施していますが、小学生については指導者(先生)が不在のため開催できていません。そこで、大阪府支部のトレセンに参加させてもらうことで、将来は県内でも小学生を対象としたトレセンを実施したいと考えています。来年度も多くの小学校の参加をお待ちしています。

赤十字奉仕団

平成25年度第1回地区赤十字奉仕団委員長会

7月26日(金)、ひょうご女性交流館において「平成25年度第1回地区赤十字奉仕団委員長会」が開催され、各地区の奉仕団委員長、地区担当者、支部職員等63人が出席しました。

北野美智子兵庫県赤十字奉仕団委員長のご挨拶の後、平成24年度兵庫県支部事業報告、モデル奉仕団、地域奉仕団員研修会等について協議いただきました。

平成25年度のモデル奉仕団は、申請のあった4奉仕団(尼崎市、佐用町、神戸市東灘区、赤穂市)が承認され、地域防災や高齢者、子育て支援に関する活動に取り組みます。

また、地域奉仕団員研修会については、県内5ヵ所(北播磨、但馬・丹波、東播磨・中播磨、西播磨、神戸・阪神・淡路)での開催が決定しました。



挨拶される北野兵庫県赤十字奉仕団委員長

赤十字奉仕団

近畿ブロック血液センターを見学して

～宝塚市赤十字奉仕団 永井芳子～



有意義だった施設見学

先日、奉仕団の研修として大阪府茨木市の山裾にある近畿ブロック血液センターの見学に26名で参加しました。白く大きな建物の中は、見事に整備され、検査、製剤、保管、供給と各分野に分かれて働いておられる白衣の研究員の方々をガラス越しに見学、ボランティアの女性の分かりやすい説明を聞きました。

血液は生命を維持するのに不可欠なものです。献血以外では作り出せないとのことで、献血された血液は赤血球、血小板、血漿などに分けられ、輸血用血液製剤、血漿分画製剤の原料になるそうです。また、それぞれに有効期間や保存温度も異なり、神経を使われるお仕事だと感じました。血液型もA、B、O、AB、RH-以外にも珍しい型があるそうで私達も、もう一度確認しておく必要があるかも知れません。少子高齢化の時代、輸血も若者に頼ることになりますが、夏休み中に若年者向けの献血セミナー等を開催していただき若者が献血に対して関心を持ってもらえればと心強く思います。